

## 「して」からみた「N<sub>1</sub>をN<sub>2</sub>にして」の位置付け方

金子 比呂子

はじめに

「する」は日本語教育の中では基本的な動詞の一つである。どの教科書でも学生たちに動詞文を導入する際、「何をしますか。」という質問文で必ずこの動詞を教えることになる。この時、学生の頭には何か行為を行うという意味の「する」が定着する。しかし、その後、次々に新しい意味、機能を持った「する」が現れ、中級段階に至っては、形式化していわゆる後置詞となった「として」が出てくる。また、なかば形式化した「N<sub>1</sub>(生き物の様子)をN<sub>2</sub>(手がかり)にして」も出てくる。留学生にとって、このように多様な「する」は確かに難しいものであろう。現に、中国人研究留学生たちから「漢字語彙はほぼ推測できるし、名詞や基本的な動詞は辞書を引けばわかるが、「する」については機能が多すぎて、どの意味なのか特定できず、困ってしまうことが多い。」という話をよく聞く。

しかし、東京外国語大学附属日本語学校（以下、日本語学校と略す）のように、初級から中級へといわゆる積み上げ教育で教えていく場合には、多様な意味、機能を持つ「する」に流れを作ってやることが可能である。むろん、教科書では文法項目は複合的に絡み合っていて、「する」の視点からだけで理想的なものを作るというわけにはいかないが、「する」の説明に一貫した流れをもたせることは可能であろう。例えば、中級レベルでは後置詞の習得が達成目標の一つとなるが、本動詞（実質動詞）から後置詞（形式化した動詞）へという「後置詞化」の過程を意識して順番を考え、導入していけば、この流れをうまく作れるのではないか。

この「後置詞化」とは、高橋<sup>1)</sup>によれば、「動詞はほんらい〔1、語法的な意味〕動作・変化を表す単語であって、〔2、機能〕文中で述語となることを主要な任務とし、〔3、形態〕そのはたらきによって、動詞的なカテゴリー（ムード、テンス、アスペクト、ボイスなど）をもち、そのカテゴリーの中で語形変化するものである。こうした動詞がほんらいの機能（述語であること）をやめ、また、ほんらいの意味（動作や変化を表すこと）をかえると、動詞的なカテゴリーを失って、語形変化が退化する。」ということである。このように、動詞の後置詞化は本

動詞から連続的に起こるものであるが、村木<sup>2)</sup>が一連の論文でとりあげた「地図をたよりに(して)」等はこの後置詞化の過程の中の一段階で、本動詞と後置詞の中間に位置すると思われる。今回はこの「N<sub>1</sub>をN<sub>2</sub>にして」について、「(に)して」に注目しつつ分類、考察し、学生にとってより説得力のある説明の基礎資料としたい。

### 「して」に注目した「N<sub>1</sub>をN<sub>2</sub>にして」の分類、及び考察

ここで取り上げたい「N<sub>1</sub>をN<sub>2</sub>に」とは、先の「地図をたよりに」のように、「名詞句を名詞(句)に」全体で文の成分を構成しており、これに動詞を補うことによって、一般に従属句と呼ばれているものに戻すことができるものである。<sup>2)</sup>日本語学校の「中級日本語」第9課では、この例文として、次の文を挙げている。

- ①タンさんは子供を相手にトランプをして、ひどく負けた。
- ②山田先生はおおぜいの学生を前に“日本の経済”について話した。
- ③週40時間働くことを条件に、その人を社員としてとった。
- ④原料が高くなったのを理由に、製品のねだんを上げた。
- ⑤現代は米ソを中心にして世界が動いている。
- ⑥昔の人々は、空や風の様子などを手がかりにして、天気の変化をあらかじめ知ろうとした。(本文)

さらに、「中級日本語」第12課本文中に次のような文が出てくる。

- ⑦地図を片手に町を歩いていても、何度お日さまを見上げ、勘違いに舌打ちしたことか。
- ⑧驚いている巡査を後に、ともかくタクシーを飛ばし、ケープタウン中央公園に駆けつけた。

「後置詞化」また初級日本語での「する」の導入の流れをふまえ、次のような指標を立てて、上記8例をチェックしてみた。その結果が表1である。チェックの際、朝日新聞社説等から拾った102例も取り上げ、考察に加えた。

#### I 「N<sub>1</sub>をN<sub>2</sub>に(して)」の「する」は

1. 文末にきて、述語としての機能を果たすか。
2. 活用するか。
3. 意志があるか。

#### II 1. 「N<sub>1</sub>をN<sub>2</sub>にして」の「して」は他のどんな動詞に置き換えられるか。

2. 「N<sub>1</sub>をN<sub>2</sub>に」で現れることが多いか、「N<sub>1</sub>をN<sub>2</sub>にして」で現れることが多いか。どちらも生起する場合、両者の間にどんな意味の違いがあるか。
- Ⅲ 「N<sub>1</sub>をN<sub>2</sub>に」の「に」、または「N<sub>1</sub>をN<sub>2</sub>にして」の「にして」は、「として」に置き換えられるか。その場合に、意味の変化があるか。
- Ⅳ 「N<sub>1</sub>をN<sub>2</sub>に（して）」の部分聞くための疑問文はどうなるか。
- Ⅴ 付帯状況を表す「N<sub>1</sub>をN<sub>2</sub>に せずに／しないで、V」の文が成立するか。
- Ⅵ 1. 「N<sub>1</sub>をN<sub>2</sub>に（して）」は「N<sub>1</sub>がN<sub>2</sub>で」の文型になるか。二者の違いは？  
2. この文型とほぼ同じ意味を持つ他の後置詞、または格助詞を使う文があるか。その文と「N<sub>1</sub>をN<sub>2</sub>に（して）」の違いは何だろうか。

表1のIからも明らかなように、「N<sub>1</sub>をN<sub>2</sub>にして」の「して」にまだ動詞的な要素が残っているということで、①「を相手にして」③「を条件にして」④「を理由にして」⑥「を手がかりにして」が一つのグループと考えられる。以下、動詞的要素がより濃く残っているものから順に、つまり①③④⑥（⑤②⑧⑦）の順に考察していく。なお、④の番号は、教科書「中級日本語」での提出順である。

#### ①を相手に・にして

- 四十五年前のこの日、日本はアメリカやイギリスを相手にした太平洋戦争に敗れた。（A：朝日新聞社説・90：1990年・8：8月・15：15日）
- （もし米を自由化したら）いつかまた「戦中戦後」の時、日本語の解らない農民を相手に...もうこれは駄目だ。山田吾一（A. 意見広告・90・9・20）

Iについては、表1参照のこと。

Ⅱ 1 意味的には、「して」は「選んで」「決めて」と意志性のある動詞に置き換えられる。また、全体の文の中でこの部分が持つ機能に注目すれば、「して」は「すえて」「とりたてて」と考えることも可能である。

2 どちらも現れそうだが、「を相手に」と「を相手にして」では文の中で持つ機能も意味も少し違う。「相手にして」は、より動詞的。

Ⅲ 「(子供)を相手として」に置き換えることができるが、「を相手として」では、「を」と「相手」の結合があまり強くない。

- 彼なら、相手として（\*にして）不足はない。

この種の文では、「として」は名目、資格を受ける後置詞と考えた方がいい。

Ⅳ この形が担っている情報は相手の資格か、ある結果をもたらした状況である。

表 1

※①番号は 「中級日本語」提出順	I	1 文 末	2 活 用	3 意 志 性	II 1 置き換え可能な 他の動詞	II 2 「N <sub>1</sub> をN <sub>2</sub> に」か 「N <sub>1</sub> をN <sub>2</sub> にして」か
①※を相手にして 用例数：2/102		○	○	○	選んで/決めて すえて/とりたてて	を相手に を相手にして
③ を条件にして 1		○	○	○	選んで/出して すえて/とりたてて	を条件に を条件にして
④ を理由にして 6		○	○	○	挙げて/使って/したてて すえて/とりたてて	を理由に
⑥ を手がかりに して (3)*		○	○	△	使って とりたてて	を手がかりに を手がかりにして
⑤ を中心にして 13+(3)		△	△	△	位置付けて/すえて が にある・いる状態で	を中心に
② を前にして 4+(3)		△	△	×	すえて/おいて が にある・いる状態で	(を前に) を前にして
⑧ を後にして 1		○	○	○	残して/おいて	を後に を後にして
⑦ を片手に(して) (5)		×	×	×	もって/かかえて	を片手に (を片手にして)

※ ( ) の中の数は、ほぼ同じ形、意味の類似表現の数。用例数合計41例。

Ⅲ として	Ⅳ 疑問文の形	Ⅴ 否定できるか	Ⅵ 他の形式
を相手として	誰を相手にして ×どのように △どのようにして どんな状態で	を相手にせずに を相手にしないで	と $N_1$ が $N_2$ で
を条件として	何を条件にして ×どのように どのようにして ×どんな状態で	を条件にせずに を条件にしないで	によって $N_1$ が $N_2$ で
を理由として	何を理由にして どのように どのようにして △どうして	を理由にせずに を理由にしないで	から, で, ため によって $N_1$ が $N_2$ で
を手がかり として	何を手がかりにして △どのように どのようにして	を手がかりにせずに を手がかりにしないで	から, で によって ( $N_1$ が $N_2$ で)
を中心として	だれ・どこ・何を中心にして どのように どんな状態(関係)で	を中心せずに を中心にしないで	の周りで $N_1$ が $N_2$ で
—	だれ・何・(どこ)を前にして どのように どんな状態・ところで	を前にせずに	の前で
—	だれ・どこ・(何)を後にして どのように (したか)	—	—
—	何を片手にして △どのように △どのようにして どんな状態で	—	—

- V・そんな人を相手にせずに／しないで、自分の仕事を続けなさい。  
・酒を飲んだ彼がいろいろ突っかかってきたが、相手にせずに／しないで帰ってきた。

- VI・その時は元ボクサーが相手でさんざんな目に会いましたよ。

「相手に」は、機能的にも、意味的にも格助詞「と」、「いっしょに」などに近く、「という状態で」などと置き換えられる付帯状況を表すものとなっている。「と」で十分なのに、例えば子供とけんかをした大人をたしなめたい時等、この形を使って非難の気持ちを強めることができる。

- ・子供と本気になってけんかするなんて
- ・子供を相手にしてけんかだなんて、本当にあの人はどうなってるんでしょう。これらの文を比べると、「子供を相手に」、「子供を相手にして」という形は、「子供と」をとりたて、強調している感じがある。

### ③を条件に・にして

- ・北側が現実的な具体案を示すことを条件に、今後も協議することを受け入れた。(A・90・9・8)

参考 イラク軍は即時、無条件に全面撤退し、クウェートの正当な政府の回復に道を開かねばならない。(A・90・8・10)

- II 1. 「して」は意味的には、「だして」「選んで」に置き換え可能。機能的には、「すえて」「とりたてて」と考えることができる。  
2. どちらも現れそうだが、「を条件に」に比べて、「して」に意志があるだけに「を条件にして」の方が作為的な感じがする。
- III 「にして」は「として」に置き換えられるが、前者の方が固定的条件、後者の方が一時的な条件という意味の違いがある。これは結果を表す助詞「に」と、仮定の助詞「と」との違いが反映しているためだと思われる。「条件に」の「に」は、「して」が省略された結果というよりは「記念に、おみやげに、お礼に、証拠に」などの名目の「に」に近い。したがって、この「に」の代わりには「にして」より「として」の方が適当である。
- IV この形が担っている情報は方法としての条件の出し方とその内容と考えられる。
- V
- ・週40時間働くことを条件にせずに／しないで、
  - ・北側が現実的な具体案を示すことを条件にせずに／しないで、

形としては可能だが、このように表現する必然性のある文脈を見つけることは難しい。

新聞の例のように条件を出さない場合は「無条件に」を使うのだろう。

Ⅵ条件という名詞の性格で、出す方と出される方の二者を想定できる。「する」を使うと、条件を出す側から、「なる」を使うと条件を出される側か、または条件を出す側、出される側双方からの叙述というように、視点が変わる。

- ・週40時間働くことが条件に(と)なって、両者間の決着がついた。
- ・週40時間働くことが条件で、その人を社員としてとった。
- ・週40時間働くことが条件で、その会社に入れてもらった。

「が条件で」の形の時も、「が条件になって」と同様に、後者のように条件を出された側から叙述する方が自然な感じがする。反対に、条件を出す方側からの叙述は「ことを条件にして」を使った方がより自然である。

「という条件で」で置き換えることもできる。条件という名詞が内容を要求するためだろう。また、後置詞「によって」に代替することも可能。

#### ④を理由に・にして

- ・不公平さを理由に、条約まで流すようなことがあってはならない。(A・90・8・19)
- ・もちろん、低劣であることを理由に、法律や条例で規制するべきではない。(A・90・9・4)
- ・過去にも熱心とか熱意を理由に、体罰教師を不問に付した例がいくつもあった。(A・90・9・10)
- ・政府は六年前、国の財政事情を理由に国保への国庫支出金を45%から実質約39%に引き下げた。(A・90・9・18)
- ・イラクの参加停止と、ヨルダンが財政難を理由に選手団派遣を断念したことで、中国が当初狙ったOCA全加盟国参加の大会にならなかったのは、残念であろう。(A・90・9・22)
- ・中小企業者への配慮などを理由に、建設省は大胆な制度改革には消極的だと伝えられている。(A・90・9・26)

参考 アメリカの米が安い、などという根拠のあやふやな理由で、日本の文化の源である米作りを失ってしまうこと、また奪おうとしていることに反対します。

- II 1. 「する」に意志性がある、「挙げて」「使って」または、「したてて」「作って」「と・に為して」等に置き換えられる。機能的には、「すえて」「とりたてて」の意味を持つ。
2. 上記6例は全て「理由に」で、「して」がない例の方が多いと思われる。「を理由に」と比べると「を理由にして」は「という理由をしたてて/作って」と「理由な本当ではないが」という意味になる場合もある。
- ・彼は病気を理由にして、学校を休んだが.....
- III • 原料が高くなったのを理由として、製品の値段を上げた。
- 「にして」は「として」に置き換えることもできるが、「理由として」は単に「理由として挙げていて」という意味になり、「理由にして」の持っている「作って」、「したてて」などの作為的な意味は薄くなる。
- IV この形が担っている情報は方法としての理由の作り方とその内容と考えられる。
- V • 原料の値段が高くなったのを理由にせずに/しないで、製品の値段を据え置きにした。
- VI • 原料の値段が高くなったのが理由で、製品の値段を上げた。(が上がった)
- 「を理由に」は「が理由で」に比べ、意図的な感じ、意志が働いているという感じが強くなる。特に「を理由にして」では「して」が強調される。
- ・原料の値段が高くなったこと から/で/によって
- 「から」「で」「によって」を使った場合と比べると、「を理由にして」を使うことによって、理由をとりたてることができることがわかる。

cf 「N<sub>1</sub>をN<sub>2</sub>して」のとりたての機能がより効果的に発揮されるのは、「N<sub>2</sub>」により強調すべき単語が入ってくる場合である。例えば、「を口実に・にして」、「を言い訳に・にして」等は、話し言葉としてもテレビ、ラジオでよく耳にする。

- ・憲法を適当な口実にして、自衛隊を派遣しないわけですね。(朝まで生テレビ)

⑥を手がかりに・にして

朝日新聞社説からは、この例が拾えなかったので、N<sub>2</sub>が手段、方法を表しているものを以下に参考までに挙げておく。(ただし、意味的に似ていても文法的に



は違う制約のもとにあることを付記しておく。)

- これ(改定された高年齢者雇用安定法)を一つの足がかりに、各企業の労使や行政は、高齢者の職域を広げるために知恵をしぼってほしい。(A・90・9・24)
- 経済制裁を、軍事的解決に代わる手段として、その功罪も従来とは違った角度から評価しなければならない。(A・90・8・4)
- だが、米ソ首脳が認めたように、現段階は国際協調による経済制裁を武器に、フセイン大統領に圧力をかけ、平和解決を摸索しているところである。(A・90・9・13)

II 1. 「して」は「使って」「採用して」「とりあげて」等の意味がある。しかし、前の3例①③④に比べると、「とりたてて」の意味はやや薄い。

2. 「を手がかりにして」「を手がかりに」には意味上ほとんど違いはなく、両者は入れ替え可能である。「どのようにして」の「して」に似ている。

III 「を手がかりにして」は「を手がかりとして」に言い替えられる。後者の「として」は後置詞的。

• 現場に残っていた指紋を手がかりにして、犯人の割り出しを急いでいる。

• 現場に残っていた指紋を重要な手がかりとして犯人の割り出しを急いでいる。

IV この形が担っている情報は、どんなことを方法の一助(手がかり)としたかということを含めた方法全体、及び手がかりの内容と考えられる。

V ポアロさんの話を手がかりにせず／しないで、自分の頭で考えてみました。

VI 残されていた指紋が 手がかりになって、犯人を捕まえることができた。

? 手がかりで

「を手がかりにして」と「が手がかりになって」はほとんど意味に違いはない。

「を必要とする」と「が必要になる」の対応関係に似ている。

• 残された指紋 から／で／によって、

「を理由にして」と同様に「を手がかりにして」を使った文にすることにより、「手がかり」をとりたてることができる。

上記⑥の例からは「して」がやや形式化しているとの印象を受けるが、今まで見てきた①③④⑥の「して」にはまだ本動詞的な性質が強かった。しかし、以下の②「を前(空間/時間)にして」等の「して」は「を前にしている」の形で文

末に現れることもあるが、上記の4例に比べて、意志性もなく、より形式化が進んだ例といえる。⑤「を中心にして」の「する」にも意志性はなく、N<sub>2</sub>も相対名詞的で「を前にして」に近い。文末にきて「中心にしている」の形になる。したがって、⑤②は上記4例とはやや異なる一つのグループと考えられる。

⑤を中心に・して (cf \*を端に・として)

- 空いて旅団やF15戦闘機隊のほか空母三隻、戦艦一隻を中心に海上兵力も配備されつつある。(A・90・8・12)
- 米、英両軍を中心とする多国籍軍は必要なら武力衝突も覚悟で、今のところ最後に残されたイラクへの出入りロアカバ湾を含め、海上封鎖の徹底化を図ろうとしている。(A・90・8・17)
- しかし、第三世界を中心に(にして・として)核兵器・ミサイル・化学兵器の拡散が心配される今日、それに少しでも歯止めをかけようとする核拡散防止条約の存在は、きわめて大きい。
- 旧制中学などで活躍した人々を中心に(にして・として)、収容所単位で野球チームが編成された。(A・90・8・22)
- 米国を中心に(にして・として)、多国籍軍が構成されつつある。(A・90・8・23)
- イラクによるクウェート侵攻後、米軍はサウジアラビアを中心に(にして・として)大兵力を展開しようとしている。(A・90・8・24)
- 広域暴力団山口組を中心に(にして・として)、各地で暴力団の抗争が絶えない。(A・90・8・25)
- 社会が豊かになって、若い世代を中心に(にして・として)、自己を殺してまで会社に尽くそうという気持ちが薄れてきた。(A・90・8・27)
- 国内の景気は個人消費と設備投資を中心に(にして・として)、底堅い、内需主導型の拡大が続けている。(A・90・8・31)
- 国保の赤字自治体は都市部を中心に(にして・として)二百数十に上る。(A・90・9・18)
- ただ、こうした措置だけでは不十分という考えが、大手を中心に(にして・として)建設業界には強い。(A・90・9・26)
- 昨年の調査では鈍化した東京圏も周辺部を中心に(=にして)再び値上がりし、地方では主要都市で上昇が激しかった。(A・90・9・20)

- ・ 今年11月に皇居を中心に(=にして)行われる即位の礼や、大嘗祭など、天皇陛下の即位をお祝いする儀式の日程や構成が固まってきた。(A・90・9・26)
- 参考 指名競争入札を柱にした現在の入札制度そのものに談合を産む素地があるとみられるからだ。(A・90・9・26)

朝日新聞社説等から拾った全102例の「N<sub>1</sub>をN<sub>2</sub>」の文の中で、13例と一番多かった。この種の文型は基点(いちばんいいもの)から端、周囲へという一方向のものしかない。

○ を頂点に・として(に) × を裾野に・として(に)

○ をトップに を先頭に × をびりに・として

参考 中曽根内閣の時、一九八五年八月一日に首相を先頭に閣僚の公式参拝を強行、国内外から激しい批判を浴びせられ、政府は翌年から首相の参拝を見送り続けてきた。(A・90・8・18)

参考 その金額は四つのグループに分かれ、時給で五百四十八円の東京をトップに、四百六十八円の青森、熊本、沖縄などまで、となっている。(A・90・9・7)

II 1. 「を中心にして」は意味的には、主体を表す場合と中心地を表す場合とがあるが、特に、中心地を表す場合には、「して」を外の動詞に置き換えることは難しい。あえて、置き換えるとすれば、「位置付けて」「すえて」等きわめて動詞的な意味の薄い、状態を指し示すような動詞になってしまう。

主体を表している場合には、「して」は「なって」に替えることができ、文全体の意味はほぼ同じでありながら、「して」を使うとその部分は副詞的成分になって、述語である文の後件を、「なって」を使うとそこで一文が終わるため、文の前件、特に主体を強調するという違いが現れるように思われる。

- ・ 米国を中心に、多国籍軍が構成されつつある。

- ・ 仏、ソ連が中心になって、事態を收拾しようと努力している。

2. 上記13例のうち、連体修飾節となる2例をのぞいては、「する」は生起していない。全部「を中心に」である。中心地を表す場合は、「に」は「にして」に置き換えられ、両者に意味の違いはほとんどない。これは、「を前にして」の場合とにている。主体を表す場合は、連体修飾になった時に現れているように「に」は「にして」よりも「として」に置き換えた方が自然である。これ

は「を相手にして」「を条件にして」等とにている。

Ⅲ「を中心に」の場合も「を中心にして」の「して」が省略されたというように「して」を前提にしないで、「として」を短縮したものだと考えた方がいい。

Ⅳこの形が担っている情報は事態がどんな状態、関係性のもとで起こっているかということ、または、事態の起こった中心がどこかということである。

中心地の意味で使われる時には、「して」は「せずに」や「しないで」に変えて否定的な付帯状況を表すことができない。主体の意味で使われる場合も「して」が「せずに」や「しないで」になる文脈は考えにくい。「を中心に」の部分  
を否定しないで、後件の文末で否定することが多いからだろう。

- ・？現代は米ソを中心 にせずに／しないで 世界が動いている。
- ・ 現代、米ソを中心にして（は）世界は動いていない。

Ⅴ「米ソが中心で、ことが運ぶ。」等と「が中心で」の文にもできるが、「が中心で」の文では、先の「が中心になって」以上に前件が後件よりも重要な文となって、あくまでも後件が重要な「を中心に」とは文の構造が変わってくる。

参考 国連中心で解決を促進せよ（A・90・8・14）vs 国連を中心にして……  
「を中心に」は文中で「を・中心・に」といった連語ではなく、全体で一つの格助詞のように機能し、文末を修飾している一成分と考えられる。

## ②を前に・にして

- ・ 緊急事態を前にして（＝を前に）、「まずアラブ内部での解決を」というエジプトなどの態度はよく理解できる。（A・90・8・12）
- ・ 今シーズンの灯油価格を決める消費者団体と特約店など流通業者との交渉を前に、北海道などでは業者の買い占め、売り惜しみと疑われる行動が出てきたようだ。（A・90・9・18）
- ・ みのりの秋を前にして（＝を前に）、コメの市場開放問題をめぐる日本国内の論議が、ようやく本格化してきたようだ。（A・90・8・16）
- ・ 例えば、夏休みを前に（＝を前にして）、子供たちの成長に役立つ体験を与えたいと、さまざまなイベントやキャンプなどの計画を立てた福祉や社会教育の関係者が各地にいる。（A・90・8・4）
- ・ とにかく、楽しかるべき夏を目前に（＝を目前にして）、ひとりの少女が「学校で」死んだのである。（A・90・8・4）
- ・ 十月一日から始まる九一会計年度を目前にして（＝を目前に）米国では政

府、議会の共和、民主両党間の折衝がヤマ場を迎えている。(A・90・9・27)

- タクシーを拾う間にもずぶ濡れになりそうなきさまじい降り方を目の前にして、(＝を目の前に)傘を辞退したことが悔やまれた。(A・エッセイ・90・8・19)

II 1.この形式は、時を表す場合と位置関係を表す場合があるが、どちらの場合も、「して」を外の動詞に置き換えることは難しい。あえて、置き換えるとなれば、「を中心にして」同様、動詞性の薄い「いさせて」「ある／いる 状態にして」のような意味の動詞になってしまう。(時：「ひかえて」、位置関係：「すえて」「おいて」か。)

2.どちらの場合(時を表す、位置関係を表す)も「を前にして」「を前に」の両方が現れるが、「を前にして」で現れる場合がやや多いか。両者は意味上はほとんど違いがなく、上の例でも両者を入れ替えられる。

III 「学生を前として」「みよりの秋を前として」はできない。「を前にして」の「に」は「前に」の「に」と同じように考えられるからだろうか。

IV 例えば、その問題についての第一人者がその場にいる時、次の文は成立する。

- あなたはだれを 前にして／前に、そのことを話しているのですか。

しかし、この文は非難の機能を持つ文で、未知の情報を求めている純粋な疑問文ではないと考えられる。一般的な疑問文では、「だれ・何を前にして」という形で聞くよりはもっと漠然と「どんな状態で」「どんなところで」等と聞く方が多いように思う。つまり、この部分は前にしている対象よりも対象との漠然とした位置関係、関係性の情報を担っているわけである。

V ・学生を前に せずに／?しないで 話す時は、あがらないんだが……

- 学生のいないところで話す時は、あがらないんだが……

前者のような文も考えられなくはないが、後者の方が自然である。

VI 「学生が前で」を成分として持つ文はない。前などの相対的名詞を「に」の前に持つ場合、この形式は「の(前)で」とあまり違いはない。

特に、位置関係を表している場合、「を前にする」という独立した文が考えにくいので、「を前にして」も従属節というよりは、単文の中の一成分(格)、「の前で」をとりたてた形という感じがする。

- あなたは学生の前でそんなことを話したのですか。
- そんな話は学生を前に話す話じゃありません。

- あなたはよりによって、学生を前にしてそんなことを話しちゃったんですか。

⑧を後に・にして

- 邦人は、武装したイラク軍が大使館を包囲してバグダット行きを要請したため、大使館を後にせざるを得なかったという。(A・90・8・24)

cf を後にして(に)・・・と言って、クウェートを後にした。(文末にもなる)

「を後にして」は、「を前にして」と「前」「後」というN<sub>2</sub>の対応関係から、対になっているように考えがちだが、「して」の視点からみると二者は対の関係にはない。「前にして」の「して」は形式化が進んでいて、意志もなく文末にもあまり現れない。これに対して、「後にして」はむしろ「後に する=残す」という慣用句の「て形」と言ってもいいほど動詞的性質が強い。

⑦を片手に

- 濡れて帰る覚悟を決めたその時、先程のフロントの女性が傘を手に現れたのでした。エッセイ (A・90・8・19)
- 土地の利便性が高まり、所有する企業は資産価値の増大を手にする。(A・90・8・17)
- しかし、一刻も早くドイツマルクを手にして、豊かな暮らしを得たいとする誘惑もそれに劣らなかつたはずだ。(A・90・9・17)
- 隣の奥さんは、次の夜、ニコニコしながらおみやげを手にして、挨拶にきた。(A・90・9・9 いわせてもらお)
- ソ連の領土問題に関する姿勢の変化について、「くい逃げ警戒」論も耳にする。(A・90・9・8)
- 修正条項が可決された際、米下院では多くの議員が「湾岸危機」への日本の貢献不足を口にしたという。(A・90・9・14)

cf 地図を片手に／花を両手に／シルクハットを頭に

「を片手に」は「を手に」や「両手に」と同じように、「持って」の意味の「して」が省略された所持の「N<sub>1</sub>をN<sub>2</sub>に」と言われている。しかし、他の身体の部分を使って同じような言い回しが可能なので、これは付着させているという意味の慣用句「にする」の「て形」とも考えられる。

## おわりに

ここまで表1にしたがって8つの「 $N_1$ を $N_2$ にして」を考察してきたが、最後の2つはここで主として対象としているものではなく、慣用語の「て形」とも言えるのでやや異質である。したがって、この2例については中級日本語の12課の本文で出てきた時に、前の9課で学習した、「 $N_1$ を $N_2$ にして」を思い起こさせ、それとの関連から少しコメントすればいい。学生はすぐ理解するだろう。

外の6つであるが、これらについては、「して」の本動詞としての性質の強さから、まず「を相手にして」を教える。この時、初級日本語16課の決心、選択を表す「(こと)にする」を思い起こさせてから導入すると、初級からの流れを断ち切らずに済み、学生にとっても整理しやすくなるだろう。

次に、中級日本語の6課で名目の「(証拠)に」を教えたので、これとよく似た「を条件にして」を教える。「を条件にした結婚」等まず名詞修飾の形で入り、機能動詞として生じた「する」に気づかせながら、「を条件にして、結婚したのに…」等と「して」が強調するという機能を持つことを示してやる。この時も、学生がすでに習った「～たり、～たりする」の「する」、「として」、「どのようにして」の「して」等と関連づけてやればよい。

「して」のとりたて、強調の機能に学生が気づき始めたところで、「を理由にして」という、「して」のとりたて、強調機能の最も強いものを入れる。この例は、他の形式とははっきり意味的、機能的な対照をなすので学生に理解させやすい。

「手がかりにして」の「して」はやや形式化が進んでおり、先のタイプと次のタイプの中間的な存在である。これを教えて、さらに形式化したと考えられる「を中心にして」「を前にして」まで、同じところでまとめて教えてしまうか、相対名詞を $N_2$ に持つものだけをまとめて、他の課で教えた方がいいのか、学生の習得効率の善し悪しにもよるが、今後の課題である。

なお、中級日本語で取りあげてある8例の外に、朝日新聞社説等に出ていた用例を表2および資料として参考までに挙げておく。日本語学校での教育のゴールが新聞の社説であるならば、社説をよく読めるためには、「を前提にして」「をもとにして」「をきっかけにして」「を背景にして」等もどこかで導入したほうがいい。

新聞からとった例も100例ほどで、分類したといっても不十分なものに終わってしまったが、学生へのよりよい説明を求める過程で、「する」という動詞が単文をいわば「分析し」、中に割って入ることによって文の副詞的成分をとりたてた

表 2

※①番号は 「中級日本語」提出順	I	1 文 末	3 活 用	3 意 志 性	Ⅱ 1 置き換え可能な 他の動詞	Ⅱ 2 「N <sub>1</sub> をN <sub>2</sub> に」か 「N <sub>1</sub> をN <sub>2</sub> にして」か
①※を対象にして 用例数： 3 / 102		○	○	○	選んで / 決めて すえて / とりたてて	を対象に を対象にして
③を前提にして 8		○	○	○	選んで / たてて すえて / とりたてて	を前提に を前提にして
④をたてにして 3		○	○	○	かかげて / 使って すえて / とりたてて	をたてに
を目的にして 2 を目標にして 1 + (2)		○	○	○	かかげて / きめて すえて / とりたてて	(を目的にして) (を目標にして)
⑤をもとにして 5 + (6)		○	○	○	すえて が いる・ある状態で	をもとに
②を背景にして 5 + (1) を舞台にして 3		○	○	○	決めて / すえて が いる・ある状態で	を背景・舞台に
をきっかけにして 4		△	△	×		をきっかけに をきっかけにして
を機にして 2 + (2)		×	×	×		を機に を機にして
を契機にして 2		△	△	×		を契機に を契機にして

ここで取り上げた用例は比較的数量が多かったもので、総計49例である。表1で取り上げた用例の



Ⅲ として	Ⅳ 疑問文の形	Ⅴ 否定できるか	Ⅵ 他の形式
を対象として	だれ・どの辺を対象にして どのようにして どのように	を対象にせずに を対象にしないで	に, に対して $N_1$ が $N_2$ で
を前提として	何を前提にして ×どのように △どのようにして ×どんな状態で	を前提にせずに を前提にしないで	$N_1$ が $N_2$ で
をたてとして	何をたてにして どのように どのようにして どうして	をたてにせずに をたてにしないで	のために
を目的として	何を目的・目標にして △何のため に	を目的・目標にせずに を目的にしないで	$N_1$ が $N_2$ で
を目標として	どのようにして	を目標にしないで	
—	だれ・どこ・何をもとにして どのようにして どのように		から $N_1$ が $N_2$ で
を背景として	だれ・何(どこ)を背景・舞台にして		で
を舞台として	どのように どんな状態・ところで		$N_1$ が $N_2$ で
をきっかけ として (を機として)	何をきっかけにして どのように どのようにして どうして いつ・何を機にして どのように どのようにして どうして		$N_1$ が $N_2$ で
を契機として	いつ・何を契機にして どのように どのようにして どうして		

合計は41例である。この90例の外に「を売りものにして」などが12例あった。

り、強調したりするという機能動詞としてのふるまい方をすることがよくわかった。以後も、現場で教えているという利を生かして学生にどう説明したら、彼らの認知的学習の流れの中に無理なく位置づけてやれるか、という文脈の中で文法を考えていきたいと思う。

#### 引用文献

- <sup>1)</sup>高橋太郎(1983) 「動詞の条件形の後置詞化」『副用語の研究』明治書院  
<sup>2)</sup>村木新次郎(1983) 「地図をたよりに、人をたずねるといふ言いかた」『副用語の研究』明治書院

#### 参考文献

- 村木新次郎(1980) 「日本語の機能表現をめぐって」『国語研報告65, 研究報告集(2)』秀英出版  
村木新次郎(1982) 「迂言的ならけみ表現」『国語研報告65, 研究報告集(2)』秀英出版  
村木新次郎(1983) 「日本語の後置詞化をめぐって」『日本語学習と研究』1983年3月号 北京対外貿易学院  
成田徹男(1983) 「動詞のて形の副詞的用法—様態動詞を中心に—」『副用語の研究』明治書院  
金子比呂子(1985) 「話しことばにおける する と やる」『ICU夏期日本語講座論集2』国際基督教大学夏期日本語講座

## 参考資料（他の用例）

### 〈を対象にして〉

- グラフ理論国際会議の開催を支援してもらったお礼に、数学者たちが四年前、地域の中学生を対象に開いたのが最初で、今回は大人も含め三百人ほどが参加した。(A・90・8・23)
- 南千島（北方領土）の住民を対象に、今春実施された世論調査でも、九割近くが日本への領土引き渡しに反対だと答えている。(A・90・9・4)
- 当局は、流通の末端までを対象に目を光らせてほしい。(A・90・9・18)

### 〈を前提にして〉

- わが国は、紛争国への武器の供与など、一切の軍事援助をやめさせることを前提に、経済制裁について何ができるかを、真剣に検討する必要があると思う。(A・90・8・4)
- 「企業優先社会」を前提にした政策は、日米構造協議などの中でも再考を促された。(A・90・8・8)
- 関西新空港が当初、大坂空港の廃止を前提として、計画されたのもそのためだ。(A・90・8・11)
- 要員派遣の当否を判断する前提として、次の点はいまいちにはしてはならない。(A・90・8・23)
- わが国外交の基本は、国連が世界の平和に機能を発揮することを前提に成り立っているといっても過言ではない。(A・90・8・30)
- 国や自治体の政策、あるいは企業の制度にしても、結婚奨励、夫婦優先を前提にしているものはないだろうか。(A・90・9・9)
- 特に武力行使を前提とする多国籍軍への支援が、日本の平和国家としての基本姿勢を誤らせないように慎重に配慮する必要がある。(A・90・9・15)
- その意味では、導入を前提にし、弊害や、困難さを乗り越えるための工夫や、仕組みを具体的に検討してこそ、任務にこたえたということになったのではないか。(A・90・9・16)

### 〈をたてにして〉

- 同時に、「憲法の制約」を盾に初めから何もする気がないのであってはならない。(A・90・8・23)
- 米議会の農業法案可決をタテに、いたずら米市場開放論議を拒否するのではなく、ヤイター提案の意味するものをよく考えてみるべき時期だと思う。(A・90・8・24)
- ポル・ポト派が強力な軍勢力を盾に、自己中心的な態度をとるようなことのないよう自制を期待する。(A・90・9・12)

### 〈を目的にして〉

- 破防法は、「公共に安全」を確保することを目的として、…「暴力主義的破壊活動」を

処罰する個人への罰則と、こうした活動を行う団体の活動を一定期間停止させたり、団体を解散させる行政措置の二本柱で成り立っている。(A・90・9・30)

- 第二は、平和協力隊の任務として国際平和、安全維持のためにとられる措置への協力を目的とする活動が上げられている点だ。(A・90・9・28)

〈を目標にして、をめぐり、を標的にして〉

- 今回のアラブ首脳会議は、米国艦船が中東をとり巻く海域に集結する中で、アラブ世界で起きた緊急事態を自分たちで解決することを目標に召集された。(A・90・8・12)
- 首相が五月十日の記者会見で「政治改革に内閣の命運をかける」と言明した時には、議会開設百年の十一月二十九日をめぐり、法案をまとめるものと受け止められていた。(A・90・8・1)
- 破防法をめぐっては最近、今秋の即位の礼などを標的にゲリラ事件を続発させている中核派に対し、もう一つの柱である団体規制を適用しようとの動きが出ている。(A・90・9・30)

〈をもとにして〉

- このようならえかたをもとに、九十三年の釧路会議までに政府と民間の保護団体が協力して準備してもらいたいことがある。(A・90・8・14)
- クウェートとイラクの貧富の差をもとに、「持たざる独裁者」の「持てる首長国」に対する革命を主張しようとするのだろうか。(A・90・8・12)
- ヤクザの国際進出が進み、豊富な資金力を元に、フィリピンやタイなどから大量の銃器が密輸入されている。(A・90・8・25)
- 確かにソ連はイラクと相互防衛条項を含む友好協力条約を結んでいる。それをもとに、イラクに大量の武器と軍事顧問を送りこんできた。(A・90・9・11)
- それを十分に利用した場合に上がる収益をもとに計算した価格と、実際の売買価格である。(A・90・9・20)

〈を基にして、を下敷にして、を目安にして〉

- 非上場株の場合は従来「類似業種比準方式」といって、同じ業種の上場企業の株価を基準に、配当、利益、簿価準資産などを加味して計算するのが普通だった。(A・90・8・5)
- これには、都道府県を基本に毎年、改定する地域別と、業種できめ細かく決める産業別との、2つがある。(A・90・9・7)
- わが国が、日米関係を基軸に平和の維持に貢献する外交方針をつらぬく一方、中東産原油にエネルギー源の多くを依存していることを考慮すれば、この出費もやむをえないと思われる。(A・90・9・24)
- 私たちはかねて、多くの国民の合意を基盤に、と訴えてきた。(A・90・9・26)
- 戦後廃止された「登極令」を下敷にしつつ「皇室の伝統と憲法との調和を図った」というのが政府の説明である。(A・90・9・26)
- これら(産業別最低賃金の改定)を一つの目安にパートなどの賃金を決めるところも

少なくない。(A・90・9・7)

〈を背景にして，を背にして〉

- ・ フセイン大統領の考えは，こうした膨大な軍事力を背景に，中東での覇権を確立することであろう。(A・90・8・3)
- ・ 高い支持率を背景に，海部氏について二年の総裁任期の後も「続投か」という見方が党内にも出はじめた。(A・90・8・10)
- ・ 現実には組織の威力を背景にした強引な活動を行っていることが多い。(A・90・8・25)
- ・ 経済発展やオリンピック主催，韓ソ首脳会談の実現などを背景に，韓国の対北姿勢に幅が加わったことは見逃せない。(A・90・9・8)
- ・ 一触即発の緊張に揺れる湾岸危機を背景に，ブッシュ米大統領とゴルバチョフ・ソ連大統領による米ソ首脳会談が，北欧のヘルシンキで開かれる。(A・90・9・9)
- ・ NLDは圧倒的に支持を背に，不当に難禁され，選挙にも参加できなかったスー・チャー女史の釈放を求めた。(A・90・9・5)

〈を舞台にして〉

- ・ 第一次世界大戦の捕虜収容所を舞台に，独仏の貴族将校が理解し合う物語だ。(A・90・9・16)
- ・ もう一つ見ておきたいのは，北京を舞台にした，いわゆるスポーツ外交の展開だ。(A・90・9・22)
- ・ 事故原因や過失割合をめぐる争いは，法廷を舞台に本格的に争われることになる。(A・90・8・11)

〈をきっかけにして〉

- ・ …イラクのクウェート侵攻をきっかけとする石油製品の本格値上げに，早くも火がついた形である。(A・90・8・13)
- ・ 政府は，まずこれをきっかけに条約の精神が多くの人に理解されるように，先頭に立って努力してほしい。(A・90・8・14)
- ・ それ(クウェート侵攻)をきっかけとして，世界の原油市場で当用買い価格は，一時11バーレル30ドルを超えた。(A・90・9・5)
- ・ 神戸高塚高校の校門圧死事件をきっかけに，文部省高校課は「真に生徒の側にたった指導を」と，高校側に自己点検を求めた。(A・90・9・10)

〈を機にして，を機会にして，を皮切りにして〉

- ・ ソ連のペレストロイカ，東欧の変革を機として東西関係の枠組みは大きく変化し，国際関係の与件もここにきて根本的に変わった。(A・90・9・9)
- ・ 両機関とも，運用方法を緩めて緊急の支援に応ずる方策を検討しているが，これを機に緊急の事態に応じられる制度を新たに設けたらいいのではないか。(A・90・9・24)
- ・ 世界中の数学者が集まって29日まで会議が開かれているのを機会に，数学とのつきあ

いを考えてみたい。(A・90・8・23)

- 三年前の広島を皮切りに、昨年春ごろから兵庫、滋賀、埼玉、千葉などで住民、自治体、企業、警察が一体となった暴力団追放組織が発足しているのはその努力の現れである。(A・90・8・25)

〈を契機にして〉

- この年はリクルート事件を契機に国民の政治不信が深まり、竹下内閣は総辞職、自民党が参院選挙で大敗した。(A・90・9・14)
- だが、ソ連同様に片肺飛行をしてきた米国も、この危機を契機にシリアに接近し始めている。(A・90・9・21)

〈名目的な「にして」〉

- したがって、安保理決議を「にしきのみ旗」として米国が本格的な軍事行動に出れば、アラブ世界の反発を買い、さらに国連の権威と信頼性をそこなう結果にもなる。(A・90・8・26)
- 衛星でなければできない特色を売り物にして、この小さい星を大きく育てることに知恵をしぼりたい。(A・90・8・31)
- クウェート侵略は憎むが、このような過去の実績を外交的資産として、イラクに反省を求めて働きかける姿勢が肝要である。(A・90・9・27)
- だれもが、日ごろ感じているこのギャップを埋めることを、今や政策の最優先課題にしなければならぬ。(A・90・8・8)

〈「考えて、判断して、言いたてて、主張して」などの意味の「として」〉

- 戦後、日本は生まれ変わった。どうして認めてくれないのか、いつまでも過去にこだわってしつこいじゃないか。平和憲法のもとで生まれそれを当然として育ったきみが、そう感じたとしても無理はない。(A・90・8・15)
- また、元船長側は裁決を不服として、すでに東京高裁に行政訴訟を起こした。(A・90・8・11)

〈状態、状況に変化を加える「とする」〉

- イラクとクウェートに残る西側先進国の国民一万人以上を人質とし、軍事施設など戦略的重要地点に抑留し始めた。(A・90・8・20)
- とにかくこれらのか弱い人々をまず自由の身とし、安全に国外に送り出すのがイラクの緊急の責務である。(A・90・8・20)
- インフォームド・コンセプトは、患者を主役とする考え方である。(A・90・8・25)

〈その他〉

- 海部首相は政治改革を自民党まかせにするのではなく、指導性を発揮すべきだ。(A・90・8・1)

- 日本はコメだけは例外に, との態度である。(A・90・8・2)
- 核兵器廃絶の決意を新たにする日である。(A・90・8・5)

## The Study on “N<sub>1</sub> wo N<sub>2</sub> ni shite”

KANEKO Hiroko

This paper studies the “N<sub>1</sub> wo N<sub>2</sub> ni shite”, adverbial clause, with special attention given to “shite”, the “te-form” of the verb “suru”. First of all, 8 different example sentences of this type in “Chuukyuu Nihongo” are examined.

(new paragraph) In order to illustrate this examination more objectively, 102 sample sentences from the editorial section of the Asahi Shinbun are also studied, and classified by various points such as : if the “suru” can be the predicate of the sentence, inflects as a verb, whether the verb “suru” is an intentional verb or not, which verbs can be replaced by “suru”.

Some conclusions drawn from the study are as follows :

- 1) According to the process from the dynamic verb “suru” to function verb “suru”, the most appropriate order in which to introduce this clause is 1. wo aite ni shite, 2. wo joken ni shite, 3. wo riyuu ni shite, 4. wo tegakari ni shite, 5. wo chuushin ni shite, 6. wo mae ni shite, 7. wo ato ni shite, 8. wo katate ni shite.
- 2) The verb “suru” in “N<sub>1</sub> wo N<sub>2</sub> ni shite” has the characteristics as the function verb ; “suru” in this clause has such functions as to accentuate or emphasize the adverbial clause or parts of the sentence. To illustrate this more concretely, we want to draw your attention to the following example.